

差別をなくしていくための取り組みについて問う

田口市長 本市の実情に合った障害者支援サービスを充実したい



竹 神 裕 輔
議 員

竹神 障害者差別解消法が、本年4月に施行されたことを踏まえ、以下の5点について伺う。

1点目、障害者差別解消法施行に伴う本市の行政サービスのあり方について、2点目、対応要領の作成について、3点目、相談、紛争解決のための体制整備について、4点目、障害者差別解消支援協議会の設置について、5点目、教育現場における合理的な配慮について伺う。

保健福祉部長 1点目の障害者差別解消法施行後の行政サービス及び2点目の対応要領については、稲敷市障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領に基づき対応しています。

3点目の相談、紛争を解決するための体制整備については、担当窓口に精神保健福祉士2名を含む5名の職員を配置しています。

4点目の障害者差別解消支援地域協議会の設置については、既存の稲敷市地域自立支援協議会にその機能を付加させていく方向で検討を始めています。

市長 障害のある人もない人も、ともに地域で暮らすことができるノーマライゼーション社会の実現を目指して、障害者一人一人の障害の個別や程度などをきめ細かに把握しつつ、本市の実情に合った障害者支援サービスの充実に努めていきます。

竹神 障害のある方が自立した生活を送るために、就労等の支援を行うなど、経済的基盤を整えるための施策が必要です。

そこで、1点目、本市における障害者雇用施策の対象者数、手帳の保持者数について。2点目、一般企業への就労者数。3番目、障害者施設での就労者数。そして、4点目が、本市の就労継続支援B型の平均工賃について。以上4点を伺う。

保健福祉部長 平成28年4月1日現在身体障害者手帳1,656人、療育手帳235人、精神保健手帳213人で、このうち一般企業への就労者数は15人です。

障害者施設での就労訓練者数は、就労継続支援B型は65人の方々が訓練を受けています。また、市内の就労継続支援B型における平均月額賃金は7,989円、平成27年度県の平均月額と比較しますと低い状況です。



障がい者の自立に向けたサービスを提供する「ハートピアいなしき」(東地区佐原組新田)



中 村 三 郎
議 員

市の将来像の具現化に向けた考えを問う

田口市長 未来を創造できる素敵なまちづくりを実現したい

中村 平成17年度町村合併以降、最大の懸案であった新庁舎の建設や、急速に進んでいる人口減少問題に対応するため、地方版総合戦略を打ち出し、「いなしきに住みたくなっちゃう♥プラン」

を県下一番に先駆けて策定し、更には公共施設の再編方針に基づき、民間事業者による学校跡地の有効利用を図るなど多くの政策が着実に実施されてきたところである。

田口市長は、これまで以上に行政改革を進めながら、効果的で効率的な行政運営を行わなければ、継続して市民の負託に応えることは困難になってくるものと思われるが、未解決の課題の一つに、小学校の再編統合問題、更には将来的な問題として、中学校の統合問題は避けて通れない問題である。

子育て支援を初め、教育を稲敷市の最重要施策と位置づけ、稲敷市の未来を担う子供たちに対する支援やその取り組みを積極的に進めてほしいと多くの声を聞いており、厳しい財政状況の中、市民にわかりやすく、開かれた行政運営方針が必要であると考えます。田口市政のこれまでの成果と今後の課題を踏まえ、現在策定中の第二次総合計画に掲げる稲敷市の将来像の具現化に向けた考えを問う。

市長 現在第二次稲敷市総合計画を策定中ですが、第一次総合計画の達成度調査では、概ね達成されているという結果が出ていることに大変ありがたく感謝をいたしております。

ご指摘のとおり稲敷市は、人口減少や少子高齢化の著しい状況が続いております。このまま現在の傾向が長期化すれば、稲敷市の活力が低下するばかりでなく、地域社会の存続すら危ぶまれることとなり、今後のまちづくりは大きな転換期を迎えております。

ふるさとを誇り、愛する稲敷市民を思い育みながら、霞ヶ浦を初めとした豊かな水辺環境や圏央道の開通等、地域のポテンシャルを生かすとともに、市民一人一人が主役となって、よい未来を創造できるよう、積極果敢にまちづくりを展開していくことを目指します。

みんなが大好きな自慢の稲敷を次世代の方々に継承できるよう、将来につながる取り組みを積極的にチャレンジし、すてきなまちづくりを実現したいと考えております。

中村 平成29年4月に任期満了となり、予定される稲敷市長選挙への出馬について伺う。

市長 市民の皆さんと協働によるみんなが住みたいすてきなまちの更なる構築に向け、また子育て、教育の更なる充実や、ハード整備などの課題が残っており、これらの諸問題を解決することが私の責務であると理解をいたしております。

行政は継続性が必要でありますので、再び市民の皆様のご支持をいただき、更に4年間、市長として稲敷市のために尽くしてまいりたいと思っております。

市民が稲敷市に誇りを持ち、市民自身の手で稲敷市のすばらしさを発信したくなるようなまちにしていきたいという私の決意を申し上げまして、答弁いたします。